



### 東部公民館 館長退任のご挨拶



東部公民館 館長 北沢 信

この度任期満了により、3月末をもちまして東部公民館館長を退任いたしました。館長就任時から五里霧中の日々でしたが、大過なく6年間任務を果たすことが出来ました。これもひとえに地域の皆様職員のご支援・ご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

さて、東部公民館在任中は「絆」を大事に「学習の場づくり」「地域づくりを担っていく人材の発掘」を目標に、事業・講座を実施してきました。その成果が学校サポート事業、福祉ひろばと連携した健康体力づくり、各団体サークル活動等で、開設20周年を迎え、利用者も延べ「50万人」を達成できました。皆様の生活の拠り所になりさらに発展していくと感じております。忙しくも大変充実した6年間でございます。これも私にとってはかけがえのない「宝」となりました。

これから一住民として公民館をさらに充実させていきたいと考えますので、どうかよろしくお願いいたします。さらなる公民館の発展、地域の皆様のご健勝を祈念いたします。まして退任の挨拶とします。6年間誠にありがとうございました。

### 二十周年記念誌 発行

昨年11月に東部複合施設の20周年記念式典が開催されたことは記憶に新しいところですが、2月1日、編集委員会により、20周年を記念した記録集が発行されました。サークルや地区団体の活動内容、各町会の小史、過去10年間の資料などを掲載しています。

### 東部地区人権講座 インドってどんな国？

東部地区人権啓発推進協議会主催で行われている人権講座が、今年度も3月13日に行われました。今年度は、異文化理解を目的に、信州大学名誉教授でイ

### 女鳥羽川の護岸工事が完成

インド哲学・インド芸術論が専門の船津和幸氏をお招きし、インド留学中の体験を中心に、お話を頂きました。異文化を知ることを通して自分たちの価値観や宗教観、人権意識を見つめ直す良い機会となったのではないのでしょうか。

県奈良井川改良事務所が平成18年度から行ってきた大橋から桜橋間の女鳥羽川改修工事が今年度で完成しました。工事費は約9億5000万円、これで一連の女鳥羽川改修工事は終了とのことです。この区間は大部分が東部地区の町会に接し、昭和34年の氾濫で大きな被害を受けました。この原因は台風の大雨で上流からの土砂が堆積したこと、木橋等の流木が清水橋や鍛冶橋に引掛かったため

です。その後の災害復旧工事は川幅を拡げ、川底を掘り下げ、さらに橋脚が無い橋に架け替えて昭和39年度に完了しました。この時の計画水流量は毎秒155トンだったそうです。今回の工事ではこれよりさらに多くの水量に耐えるように毎秒250トンの計画水流量、降水量でいいますと、80年に一度という大雨にも耐えるようにするということでした。このために断面を大きくしましたが、場所柄から川幅はこれ以上広げることではできませんので川底を掘って深くしました。深い所は1メートル以上掘り下げたところもあるそうです。元の護岸は残しておき、掘り下げたところに護岸を付け足し、いかなれば2段の擁壁としました。この新たな護岸はコンク

リート壁に金網を張り、ここに自然保護や景観を考えてフック付の鉄棒を付けた自然石を張り付ける修景工（石張工）を施しました。この下には周辺の地下水位の低下や地盤沈下を防ぐために一部を除いて鋼製の矢板が打ち込まれています。2段の擁壁の間に遊歩道を作ったり、三九郎等で河原に降りられるように所要所に階段を作ったりして親水性に考慮した構造となりました。今後一層綺麗な川となるように草刈りなど地元ができる努力は必要と思えますし、水害に強くなつたものの近年の異常気象を考えますと油断はできません。昭和34年の苦しい状況を忘れずに常に災害に対する対策を心掛けたいものです。



昭和34年水害の様子 (餌差町町会提供)



工事の様子

# 賑やかに豆まき 下横田恵光院の節分会豆まき式



2月3日下横田の臨濟宗恵光院で家内安全を祈って節分会豆まき式が行われました。市内では深志神社の豆まきが有名ですが、成田山分院である恵光院でも行われていま

す。午後7時近くになると厚く着込んだ人びとが次第に集まってきました。境内はライトで明るく照らされ、古いだるまやお札を焼く「お焚き上げ」の火が赤々と燃え、本堂からは読経の声が大きく響いていました。

午後7時には200人程の人で境内がいっぱいになり、大般若の読経が終わり豆まきが始まりました。最初は僧侶



豆まきの様子 (恵光院境内にて)

数人が2階のロビーに並んでまき、そのあと一般の年男女等40人ほどが入れ替わりながら箆(へら)の中の餅や菓子等を振り撒いていました。中には小型の福だるまもあつたようです。拾う人は目の色を変えて叫びながら競って拾い集めていました。終わりますと、檀信徒は本堂で予約してあつた福だるまやお札を受け取り解散となりました。

周辺のお宅には成田講のみ

## そば打ち体験教室

そば処として知られる信州。蕎麦屋の名店も挙げればキリがないほどですが、それでもやっぱり自分で打った「打ち立て」「茹でたて」のそばが一番おいしいと感じるものです。2月25日に開催された「そば打ち体験教室」は、自分で

なさんによる赤鬼、青鬼が訪問して回り、賑やかな「鬼はそと福はうち」の声が聞こえていました。

打ったそばを食べてみようというのを目的として開催しました。当日は、まったくの初心者を含め6名の参加者があり、それぞれそば打ちに挑戦しました。



そばを打つ参加者

講師には、以前「我がまち自慢」でもご紹介した三代澤健一さん(清水中)をお招きし、そば打ちの基本をみっちり伝授して頂きました。

もちろん、そば打ち名人から指導を受けたからといってすぐにそば打ちがうまくなる訳でもなく、出来上がったそばはペラペラなものやきしめんの様な物など様々でしたが、茹でて食べてみると「うまい」。

## 我がまち自慢 奉仕こそ恩返し

●片端町町会 銭坂 明尚さん

保護司、町会役員や清掃など

銭坂明尚さんは、保護司や町会長等を歴任されているとともに33年もの間、近所の歩道の清掃を続けています。そんな銭坂さんの、人に地域に温かい活動をする源である生き方についてお話を伺いました。

「地域貢献する理由は。父親が全盲の弁護士だった為、手を引いて歩くなど付き添って仕事をさせていただきました。その時に携わった社会福祉法人長野県盲人会館の設立や視覚障がい者援助等で大勢の方に助けていただきました。それを少しでもお返しできれば



深志橋にて

### 経歴は。

仕事は昭和33年に独学(経営学)で始めた経営コンサルタントを今でも。この間に保

健康であること。活動の源と心がけは。15歳から終戦までの海軍予科練の1年間、日常は全て駆け足の生活が身につけています。そのお蔭か日常的に歩くことは苦にならないし、薬も飲まずに過ごさせて

「5分前の精神」、「耐える勇氣と先見の活動」が座右の銘。休日もない生活でしたが苦勞したと思つたことはありません。妻からは「奉仕が趣

味」とからかわれています。銭坂さんにお話を伺つたのが、偶然にも88歳の誕生日。保護司での苦勞話や平成14年春に授章した「藍綬褒章」等の話に触れない姿に、謙虚で清廉な人柄を感じました。